(C) 日刊スポーツ新聞社

第3種郵便物認可　日刊スポーツ　2009年(平成21年)10月3日　土曜日　7版名　(10)　スポーツ

小林可夢偉 緊急デビュー

グロック発熱回避で大役

F1日本GP フリー走行

トヨタの控えドライバー小林可夢偉（かむい、23）が2日、鈴鹿サーキットで開幕したF1日本GPのフリー走行で、デビューを飾った。正ドライバーのティモ・グロック（ドイツ）が発熱で走行を回避。「朝、サーキットに向かう途中で聞いた」と言う小林に急きょ大役が回った。

雨天に加え、最後にマシンをテストした半年前からハンドルのボタン配置などが変更されるなど悪条件が重なったが、フリー走行1回目が19位、2回目は12位のタイム。「もっと走りたかった」と大胆に話した。

小林は所属するトヨタの育成プログラムTDPで16歳から欧州のレースに参加。実戦での失敗から問題を発見、解決し、タフなレースを生き抜く精神面を鍛えてきた。「いつでも走れると言ってきたことがウソじゃないと証明できた」。今日3日の予選ではグロックの復帰が濃厚だが、チームとファンにその存在をしっかりと印象づけた。

◆小林可夢偉（こばやし・かむい）1986年（昭61）9月13日、兵庫県尼崎市生まれ。9歳でカートを始め、00年に全日本ジュニアカート選手権でシリーズ優勝。01年にTDP入り。06年にユーロF3シリーズに参戦し新人王、07年には1勝を挙げて総合4位。08年からトヨタの控えドライバー。今年はF1と並行してGP2に参戦した。168キロ、53キロ。

F1デビューを果たした小林可夢偉

体調不良乗り越え日本人初決勝

杉山 有終V 王手!!

女子テニス 東レ・パンパシフィック・オープン（6日目）

◇2日◇東京・有明コロシアム◇シングルス、ダブルス準決勝

今大会で引退する杉山愛（34＝フリー）が有終Vに王手をかけた。ハンチュコバと組んだダブルス準決勝で、ペトロワ、ドゥルコ組を7―6、7―5で破り、決勝進出を決めた。この大会のダブルスで日本選手の決勝進出は初めて。杉山が大会前半から悩まされていた体調不良も回復の兆しを見せ、この日は好プレーが随所に出た。スキアボーネ（イタリア）クレイバノバ（ロシア）組と対戦する今日3日の決勝が、現役最後の試合。最高の花道にするつもりだ。

▽ダブルス準決勝
杉山（フリー）／ハンチュコバ（チェコ）（7―6、7―5）ドゥルコ（アルゼンチン）／ペトロワ（ロシア）

こん身フォア

杉山が現役最後の舞台を自ら整えた。マッチポイントで打ち込んだ、こん身のフォア。相手のリターンがアウトになると親友のハンチュコバに抱きついた。

杉山 ここまで来られたことに感謝。全部のシチュエーションを考えれば、ここに立てるのが奇跡だったから。

大会直前の9月27日に襲われた体調不良の影響で、今大会は精彩を欠いたプレーが続いた。前日1日のダブルス準々決勝も試合中に吐き気をもよおすほど。だがこの日は輝きが戻り始めていた。第1セット後、相手2人がともに左太もも痛で治療。その後にペースを変え、のらりくらりとした2人のプレーにハンチュコバが戸惑い始めていた。そ

ダブルス準決勝で勝利し、記者会見で最高の笑みを見せる杉山愛（右）とハンチュコバ（撮影・神戸崇利）下力強いフォアのストロークを見せる杉山（AP）

の中でも杉山は自分のプレーは見失わず、接戦で踏みとどまった。ハンチュコバは「私が愛に引っ張られた。今日は愛なしには勝てなかった」と感謝した。

かつてシングルスを軸としていたハンチュコバとは一時期、ペアを解消したこともあった。今年は全豪で準優勝したが、タイトルには手が届かず、今回優勝すれば06年5月のローマでの大会以来となる。杉山は「ツアーで親しい友達は多くはないけど、彼女は本当の友達」と特別な思いを抱いている。

最高の友と大会史上、日本人で初めてダブルス決勝のコートに立つ、「明日は結果より、私たちらしい試合がしたい。自分たちのことをやれば、勝ちが見えてくる」。決勝の相手も、本命と目された第1シードで4大大会4度の優勝を誇るフーバー、ブラック組が準決勝で敗退、有終V追い風も吹いた。あとは杉山が最高のフィナーレを描くだけだ。【広重竜太郎】

最高の友と今日ラストマッチ

シャラポワ 復活Vあと1

○：シャラポワが約1年6カ月ぶりの復活優勝に王手をかけた。最終セットの5度目のマッチポイントを、絶叫とともに強烈なバックハンドで決めた。右肩故障で長期離脱の時期もあったが、08年4月のボシュロム選手権以来となるツアー優勝に大きく前進。今日3日の世界ランク8位ヤンコビッチとの決勝戦に向け「とても興奮している。最後はタフな試合になるが、すべてを出し切りたい」と気合十分だった。

▽シングルス準決勝
シャラポワ（ロシア）（6―3、2―6、6―4）ヤンコビッチ（セルビア）
A・ラドワンスカ（ポーランド）（6―4、6―3）李娜（中国）

父の走りほうふつ 雨のナカジマ 1回目2番手

○…ウィリアムズの中嶋一貴が雨の中、フリー2回目で2番手、1回目で5番手のタイムを出し「雨のナカジマ」とよばれた父悟氏を継承する走りを見せた。「雨の中1日でも楽しんだ、いい1日だった」と自信を深めた様子。一方、悟氏はこの日から鈴鹿入り。場内イベントで決勝のカギを握る選手を聞かれ「一貴がいい走りを見せること。それしかないでしょ」と、親ばかぶりを見せていた。

琢磨「就職活動」

○…F1復帰を目指して浪人中の佐藤琢磨が鈴鹿サーキットで「就職活動」に励んだ。トヨタのハウエット社長やF1界の実力者・エクレストン氏らにあいさつ。ゲストで参加したイベントでは「ヘルメットを持ってきています」と、欠員が出た際はすぐに代役が務められる態勢をアピール。中嶋にエールを送ったが「本当はピットにいたかった」と本音ものぞかせた。

独白 中嶋一貴 (下)

今季について

14戦を終えてノーポイントという成績は、間違いなくハッピーじゃない。でも、なぜこうなっているのかはボクもチームもよく分かっています。ボクのミスもあれば、チームのミスもあった。クルマがコースに合わないこともありました。

ポイント獲得が確実だったのに、ピット作業で時間をロスして12位に終わったトルコGPは一番悔しかった。レース後には気持ちを抑えきれず、壁を殴りつけていました。でも、悔しいとか悲しいとかいうのはその場だけ。次に向けて気持ちを切り替えて臨みます。

3月の野球のWBCでは、日本の優勝に感動しましたし、自分も頑張らなきゃと思いました。でもF1はチーム同士の戦いなので、日本人といっても日本代表という意識はありません。国を背負う代表チームの高揚感はうらやましい。でも、ボクの活躍が日本のF1人気の起爆剤になるなら、結果を出したいですね。来年もF1に残留するためにも、結果が必要ですから、今の予選から今年学んだことを発揮できればと思っています。応援をよろしくお願いします！【構成・米家峰起通信員】（おわり）

F1人気のため結果出す

今日のスポーツ

◇野球 東京6大学リーグ 立大―法大、慶大―東大（11時・神宮）▽関西6大学リーグ 大経大―京産大、神院大―大商大（10時30分・スカイマーク）

◇ゴルフ コカ・コーラ東海クラシック3日目（7時・愛知県三好）▽日本女子オープン選手権3日目（8時・千葉県我孫子）▽宮古フィルムシニア選手権最終日（8時・千葉県平川）

◇陸上 国民体育大会8日目（9時・長岡市希望が丘テニス場ほか）

◇サッカー JFL後期第11節第1日（13時・町田市立陸上競技場）▽関西学生リーグ後期5日目（11時30分・京都府太陽が丘陸上競技場ほか）

◇フィギュアスケート ジャパン・オープン（13時・さいたまスーパーアリーナ）

◇バスケットボール 日本リーグ アイシン二葉金機